

平成24年度 第2回北区まちづくり協議会全体会

会 議 録

日 時：平成24年11月1日（木）午後3時開会
場 所：札幌サンプラザ「高砂の間」

重複した言葉遣いや、明らかな言い直しのあったもの、わかりづらい表現などは、整理した上で作成しています。

1 開会

司会：(木内市民部長)

2 あいさつ

座長：(鉄西連合町内会 梅香会長)

吉澤北区長

3 議事

梅香座長

ここからの司会進行を務めさせていただきます、座長の梅香でございます。よろしくお願いいたします。

ご案内のとおり、本日は、「避難時の地域の役割・行動」について、皆様方と意見・情報の交換をしていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いします。

さて、北区では今年度も各地で、町内会や自主防災組織が中心となりまして防災訓練や災害図上訓練などを実施しております。

また、今年8月31日には、北区災害防止協力会、本日も、森会長にお越しいただいておりますが、北区土木部とが合同で防災訓練をされたほか、鉄西地区と幌北地区合同の北区防災訓練も実施されているところであります。

そこで、今回、意見交換に入ります前に、避難所運営に関する訓練も行われました鉄西地区と幌北地区合同の北区防災訓練について、北区役所と、参加者を代表して、永野 幌北連合町内会会長から報告をしていただき、その内容も参考にしながら、平時から行っておくべき準備や、現状の課題などについて意見交換を行って参りたいと考えております。

また、お手元にアンケートが配られていると思いますが、これから行う意見交換を通じ、団体として取り組んでいきたいこと、あるいは、この協議会の運営についてのご意見などをお聞かせいただきますとともに、来年度のテーマについても、ご意見を頂戴したいと考えております。

アンケートは、協議会終了後に事務局で回収いたしますので、ご協力をお願いいたします。

ただ、このアンケートは、この場で書けないかもしれませんので、その場合は、後日、事務局に送付いただくことでも結構でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、初めに、北区防災訓練について、山道総務企画課長よりお願いします。

山道総務企画課長

皆さんこんにちは。北区役所総務企画課山道でございます。

私からは、先日行われました北区防災訓練の概要説明ということで、この後、幌北連合町内会の永野会長から報告がありますので、かいつまんでご報告させていただきます。

今回の北区防災訓練は、区役所主導というよりも、むしろ鉄西、幌北両地区の役員の皆様方が事前準備から行った、地域主体の訓練でございました。

昨年までは、行政の側がだいたいのシナリオをつくり、そこに人を出していただ

き動いてもらうというようなことでしたが、今回は、企画段階から地域の方からお知恵を出していただきました。

資料をご覧ください。

本来であれば、1の から本番の防災訓練ということになるのですが、今回は、その前段階の の防災DIGを6月に行いました。

DIGというのは災害図上訓練、Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の略でして、災害が起きてから避難するまでどのようにするだろうという研修でございます。

の避難場所運営研修ですが、なんとか避難場所までたどりついたら、そこで生活をしなければなりません、この避難場所での生活の運営は行政だけでは行うことができませんので、地域の方が担っていくこととなります。それをどうしたらよいかの研修です。

の意見交換会ですが、これは防災訓練の内容を、どういったものにしてくのかという意見交換でございます。防災訓練の項目を含めて話し合っていました。

の説明会は、 を踏まえ我々が説明会を開きました。それで、 の防災訓練に入りました

8月31日から9月1日と2日間に及んでおりますが、これは実際に泊ってみたということでございます。

の防災訓練を行ってみての振り返りですが、当初は1時間位の予定でしたが、2時間を超える熱の入りようでした。

2番の第一部の防災訓練ですが、これは幌北小学校の児童が授業の一環として参加しました。住民参加の防災訓練では、この資料にありますような訓練が行われました。

第二部として、避難所運営訓練、宿泊体験ですがこれは初めての試みでございました。ここにありますように、それぞれの班に分かれ、この区分けは事前の話し合いの中で行われていますが、班長や班員が力を出し合って運営をしていったというものでございます。

21時に消灯ということですが、その後については、後ほど永野会長からご報告があらうかと思えます。

当日の防災訓練だけではなく、その前段で色々な研修、準備を地域主体でやっていただきました。実際に災害が発生したときには、すぐには行政の支援は行き届かないということを踏まえた、防災訓練の入門編が出来たのかなということでございます。以上でございます。

梅香座長

ありがとうございました。

続きまして、防災訓練に参加されました、幌北連合町内会永野会長より報告をいただきます。永野会長、よろしく申し上げます。

永野会長（幌北連合町内会）

ただいま紹介いただきました、幌北連合町内会会長の永野でございます。

このたびの訓練では、鉄西連合町内会の梅香会長とともに、避難場所自主運営組織の本部長として参加いたしました。

北区の防災訓練は、各連合町内会が担当しております。

今年は本来であれば鉄西地区が担当でありましたが、鉄西地区内の北九条小学校が改築を行っていて運動場が使用できませんでしたので、幌北地区内の幌北小学校を貸してほしいという話がありました。来年は私どもの順番でございますので、それでは、今回一緒にしてはということで、合同訓練ということになりました。

幌北地区の特性については、お配りしている「北区防災訓練に参加して」という資料のとおりでございます。札幌市の中でも平均年齢が一番若く、40歳ということでございますが、この地域には大学が多く、学生が多いということでございます。

また、留学生も多いのですが、これも大学が多いということでございます。賃貸マンションも多いのですが、これも学生さんが入っているということでございます。

町内会活動の担い手が高齢していく中で、数年前から、学生が町内会の色々な事業に参加してくれるようになりました。きっかけは、役員の高齢化ということがあったため、連合町内会の夏祭りにアルバイトで北大の学生を呼んだことでございます。

そうしたところ、学生たちがすっぴりのめりこみ、自主的に企画・運営にも入ってくれ、夏祭りがスムーズにいくようになり、さらには夏祭り以外の事業にも参加してくれるようになりました。

今年は、新しい企画として北大アンビシャスフェスタというお祭りを2日間にわたり開きまして、連合町内会とともに行いました。

今回の防災訓練にも、学生に色々とお世話になりましたが、これは、鉄西地区も同じような状況であると思います。

今回の訓練の特徴を3つあげますと、1点目は一連のプロセスで構成された訓練であったことでございます。町内会行事が重なる中で大変ではございましたが、それにも増して有意義な機会でありました。

2点目は地域特性が似た連合町内会が合同で実施したことでございます。今回訓練を実施した幌北小学校は幌北地区にございますが、東区との境にあるため、実際に避難所になった際は東区の方も避難されると想定されます。このように違う地域の方と連携して訓練を実施するということは有意義であったと思います。

3点目は訓練のレベルでございます。避難所の情報やノウハウが十分でない中、高齢者や子どもたちが参加する初めての試みであり、避難所に滞在して体感する、いわば、避難所生活体験の入門編ということになるかと思います。

災害対策の充実には財源は欠かせませんが、「人、情報、物」それぞれが重要だと思います。

幌北では、まず、連合町内会や防災部の会議などで議論をし、この訓練で、地域、個人として防災上の知識やノウハウの継続的な醸成、PTAなど関係団体との連携強化、住民の地域活動への理解の促進を目指して参りました。

次に、両連合町内会の協力体制を築くため、代表者数名による事前の連絡会議を開催し、情報交換、方針の確認などを行いました。

また、地域のリーダーとして避難所運営に力を注ぐため、自分たちとその家族の

身を守る日頃の備えの重要性を再認識しました。

勤労世帯や学生などの若い力がなければ、災害時の十分な支援は難しいかもしれません。

また、共同住宅では、地震によって停電しますと、発電機を備えている所はよろしいのですが、そうでなければ暖房などが使えず、給水ポンプも動かずに水が出ないこともあります。

マンションの中にはマンション自身で水槽を持っている所がありますので、自分のマンションがどうなっているのかを確認されたら良いのではないかと思います。

家庭では、3日分の水や食料を備蓄するようにと広報がありますが、人間は食べるはなくても水さえあれば、3日間はどうかかなと思いますので、水だけは用意されたら良いと思います。

また、停電になりますと、冷蔵庫の物は数日で食べられなくなると思いますので缶詰等も必要ではないかと思います。

市では、この春に「マンションの防災力」のパンフを用意しましたが、そうしたわかりやすい資料を充実させ、活用することも重要と思います。

意見交換会は、地域の意見を訓練に反映させる機会となりました。これまでの防災訓練では、バケツリレーが行われていましたが、バケツリレーは昔の時代の名残でありますので省きました。小学校では、生徒がこれをゲーム感覚で楽しそうにやっておりましたが、それはそれで、意義があったのではないかと考えています。

日中の屋外訓練は、消火器の使用、簡易な担架づくりなど実践的な内容でした。これらは、毎年やっていることですが、毎年やらないと忘れていくのではないかとということが心配されます。

その後、17時から体育館で屋内訓練に移りました。班別の役割として、総務班はルール説明などを、情報班は模擬的な情報伝達などを行いました。施設管理班は、区が用意した個室テント内の簡易トイレ設営などを行いました。ビニール袋に水を入れて凝固させる実演は、初めて見る方が多く大変好評でした。

テントの中に簡易トイレをつくり、ビニール袋に排泄物を入れ凝固させるというものであります。ビニールは1回ごとに必要であり、しかも固めたものが残り、どこかに置いておいたり、移動しなければなりませんので、実際にこれが何日も続いたら大変であると思いました。

東日本大震災の際の福島では、校庭に穴を掘り、そこがいっぱいになったら、また横に穴を掘りということであったそうですが、恐らく、そのようなことをしないと、とてもビニール袋では対応できないと思いました。

避難者管理班は、名簿を用いた受け付けなどを行いました。食料班は、夕食を準備しました。夕食はアルファ米で、白米と五目飯があったのですが、それだけでは寂しいということで、数日前に缶詰も用意し、ご飯、水、缶詰を配りました。

朝食は缶詰パンとペットボトルの水、炊き出しの味噌汁でした。味噌汁はおいしく大変好評でありましたが、実際の災害時には鍋や味噌などは用意されておらず、また、ガスなども利用できなくなることも考えられるので、こういうことは難しいと思いますが、こういうことが出来たら良いと思いました。

物資班は、リヤカーでダンボールを集めました。リヤカーは簡単で良いのですが、

リヤカーを持っている町内会は1つで1台しかありませんでした。

また、段ボールもスーパー等にいつもあるわけではありませんので、数日前から連絡し、ためておいてもらい、それで80人分の床に敷く分、囲いの分を集めました。

ですが、実際には、数日前から連絡するという事はできませんし、幌北小学校の避難所には200人位が集まるということでございます。それだけの分を集めるのは難しいと思いますので、こういったものの備蓄ということも考えなければならぬと思いました。

校庭内では、防災用品の展示も行われました。これも初めて見る方もいらっしゃいました。

次に宿泊体験ですが、初めてであり多くのことを体感いたしました。人の五感で考えてみますと、まず、視覚的には、区が床置き型の照明を用意してくれたので、歩行も支障がなく、安全にトイレに行くこともできましたが、停電ということも考えられるので、最低の電力、懐中電灯などの備えも必要と感じました。

聴覚ですが、体育館の床は歩くとトントンと音が響くので、その対策も必要と思いました。

また、子どもたちの消灯時間を過ぎての私語についても問題があると思いました。

触覚ですが、段ボールを敷き、その上に市から支給された寝袋で寝るのですが、若干のクッション性はあるものの、それだけでは床が硬くて大変でした。一晩なので我慢はできますが、これが続くとなると大変だと思いました。

また、今年は暑かったので問題はありませんでした。保温性の問題としては、市が用意した寝袋は夏用でして、秋から冬、春にかけては寒くて寝ることはできないと感じました。冬の寒さに耐えることができる寝袋となりますと、数万円と値段が高く各個人が備えるということは難しいとも思います。

しかし、市の試算では、マグニチュード7クラスでは約8千人が死亡、そのうちの約6千人が凍死ということであり、何かに挟まれるなどして救助が遅れると、凍死するというところでございます。

どうにか避難所にたどりついて、暖房がなく、この寝袋だけでは凍死とまではいかないまでも、かなり寒い思いをして大変な目に遭うことは間違いないと思いました。

福島では、校庭でたき火をして暖をとったということではありますが、200人が集まってきて、たき火をするということは難しいと思います。

次に味覚の問題ですが、ご飯は先ほども言いましたが大変おいしかったです。ただ、味噌汁となりますとそれなりの用意が必要となりますし、お酒についても、いつも飲んでいる方が、長期間飲めなくなると、ストレスがたまるのではないかと思います。

臭覚ですが、今年は暑かったため体育館の入口ドアもあけていたので風の通りも良かったですし、簡易トイレも実際には使用してないため、臭いを感じることはありませんでした。しかし、実際には、何百人の方が入り、トイレを使うということになりますと、生活臭がトラブルの一つになるのではないかと思います。

このように色々考えさせられた宿泊を終え、朝に解散となりました。その後、日を改めて本部役員、班長などが参加した振り返り会が開かれましたが、有意義であっ

たと思います。

最後に感じたことは、災害が発生し、不幸にも家が倒れて避難所に行かなければならなくなった場合は別ですが、もし、自分の家になんとか住めるのであれば、自分の家に留まる方が良いと思います。そのためには、食料などの備蓄が必要です。

そして、避難所には毎日通い、情報交換、配給を受けるということが必要ではないかと思います。

急ぎで報告させていただきましたが、このたびの訓練に御尽力いただきました、区の方々、町内会の皆様には心からお礼申し上げます、報告とさせていただきます。

梅香座長

永野会長、ありがとうございました。

それでは、これより意見交換に入りたいと思います。意見交換の司会は、事務局にお願いします。私も意見交換テーブルに着かせていただきます。

3 意見交換概要説明

事務局（石山地域振興担当部長）

事務局次長を務めます、北区市民部地域振興担当部長の石山でございます。

それでは、本日の意見交換の進め方などについて、簡単にご説明させていただきます。

本日の意見交換のテーマは、「避難時の地域の役割・行動」でございます。

意見交換は概ね40分間とし、意見交換終了後にはグループごとに発表をしていただきますので、あらかじめ発表される方を決めておいていただきたいと思います。

議事進行と書記は、各グループにおりますまちづくりセンター所長及び市民部職員が務めます。

また、お手元のアンケートでございますが、これは、先ほど座長からもお話がありましたとおり、これから行う意見交換を通じ、団体として取り組んでいきたいこと、あるいは、この協議会の運営についての意見、また、来年度のテーマについてお聞かせいただきたいと思います、ご用意させていただいているものです。

できるだけ多くの意見・感想をお寄せいただきたいと思いますので、どうぞご協力をお願いいたします。

アンケートは、協議会終了後に、お出口で回収させていただきますが、昨年度同用、ご自宅でご記入いただき、後日、地域振興課あてに郵送またはファクスをしていただいても構いません。

大変恐縮ではございますが、アンケートを後日提出される場合は、11月9日金曜日までに提出いただきますよう、よろしくお願いいたします。

それではよろしく願います。

< 意見交換 >

4 意見交換内容の発表

Aグループ

私たちのグループでは、避難場所に特化して話し合いをしました。

その中で、災害時は混乱が予想されるので、リーダーの養成が大切という話があり、そのためにはリーダーの訓練を受ける研修の機会を作っていくことが必要なのではないかということになりました。

また、救援物資の話をしている中で、女性の生理用品、ミルクやおむつが不足したという話もあり、女性の視点が重要ではないかということで、女性のリーダーを養成していくことが必要ではないかということをお話ししました。

避難場所では、自治体が指定する避難所以外の場所、例えば公園の管理等やマンションの集会所などと協定を結び、そこに避難した場合も、救援物資が届くようなシステムづくりが必要との意見がありました。

麻生では、お寺や商店、私たちのカフェもそうですが、何かが起きた時には避難場所として受け入れますよということをお話し、商店街、町内会の方々と話し合いを行っています。

また、3日間の物資を各所で備蓄するという話から、コンビニエンスストアは北海道と協定を結んでいて、何かがあれば物資を提供してくれるという話も出ていました。

また、学校は避難場所になりますが、避難時に鍵をどうするかという問題が解決されていないところがあるということから、地域と学校がより連携していけるよう、間に行政が入りきっかけを作ってくれたら良いのではという話もありました。

炊き出しでは、PTAのお母さんたちや子どもたちも入って一緒に訓練すると、顔の見える関係ができ、何かあったときにも地域で一致団結できるのではないかと話が出ました。以上です。

事務局：(石山地域振興担当部長)

ありがとうございました。

続きましてBグループ、よろしくお願ひします。

Bグループ

マンションが多いところ、一軒家の多いところとありますが、それぞれで被災し混乱が起きた時の想定をしておくこと、避難所の収容状況やそこに物資は届くのかを確認しておくこと、家族の安否を確認するため何かあった際にはどうするのかをお話し合っておくことが大切という話がありました。避難所までたどり着けない時は、どこに行くということも決めておくことが必要と思います。

また、自分のマンションで言いますと、避難をした際には「避難しました」という札を下げることにしており、そういう訓練を年1回行っていますが、日頃の訓練も大切です。

戸建の方は、例えば自分の家が倒壊したときに助けていただくよう近所のコンビニに頼んでおいたり、また、お年寄りなど避難所まで行けない方々のためには、近くのどこに行くということをお話しておくことが必要ではないかということです。

また、町内会の連携や住民説明会などがあつた際には参加していくこと、自分たちで3日間の食料や水を用意しておくことも大切ですし、近くのホテルやスーパーなどに協力を要請しておくことも大切です。

先ほどもありましたが、リーダーの存在は重要ですので、リーダーの養成研修しておくことや、行政に地域の状況を伝えておき、支援していただけることは支援してもらえるようにしておくことも大切だと思います。

また、市の備蓄物資の状況も把握しておくとともに、各町内会やマンションでも備蓄していくことが大切だと思います。特に冬は寒いので、冬のための毛布なんかも大切だと思います。

時間が短くてうまくまとめられなかったのですが、以上でございます。

事務局：(石山地域振興担当部長)

ありがとうございました。

続きましてCグループ、よろしくお願いします。

Cグループ

この内容を議論するには、40分ではとても無理だと思いました。皆さんの生の声も聞けませんし、今後に向け、ぜひ考えていただきたいと思います。

私どものグループでは、3.11の際にたまたま仙台にいて、12日間現地で体験をされた方がいまして、その話を聞きましたら誰も話をする元気がなくなりました。

ここでの話はほとんど夢物語で、実際には本当に大変なものなんですね。前回の全体会で南三陸町の語り部さんが話していた中で、家族をつれて逃げた人はいなかったとありましたが、全くそのとおりだと思いました。

避難所には、色々な人が集まります。見たことも無い人も集まると思います。その中で、どのようにリーダーを作っていくのかが大きな問題だと思います。町内会長が必ず避難所にいるとは限りません。リーダーになる人は、必ずどこかの町内会に所属しています。少しでも多くの啓蒙を受けた人がリーダーになるのだと思います。

避難所の機能といっても、避難所によってそれぞれ変わると思います。自家発電装置があるところと無いところ、非常食を置いていない所、学校に避難したら開けてくれない所もあるかもしれない、自分たちの避難所の機能をどのように確保していくのかという問題があります。

その前に、避難所に行くまでの道路が使えるのかどうかという問題もあります。避難経路は1つだけではなく、2つ3つと作っておかないと大変なことになるのではないかという感じがしています。

もし、3.11のような災害が北海道にあつたら、何人の方が生きることができるのだろうということを考えますと、寒さ対策をもっと真剣に考えるべきだと思います。

避難所では、水、食料が必要なのは当然ですが、何日分必要なのかといいますと、集まる人によって変わってきますので、きめ細かな計画を立てておかなければならないと思います。

リーダーということでは、日常の中で、熱心に町内会の防災活動に参加してくれ

る人がリーダーになると思います。

平時からの準備としての防災訓練ですが、行政、町内会、民間が主体になってやるものといろいろありますが、どれだけの方が参加していただけるのかが問題でして、これについては、町内会が中心となってやっていかなければならないと思います。

また、シミュレーションの実施について、項目別にどうあるべきかということ、時間をかけて頭の中で反復できるような体制を作る必要があると思います。

個人的な話ですが、北連町では10月24日に夜の防災ということテーマに訓練を行いました。その中で非常食を食べましたが、暗い中で食べてもおいしくないのです。電気をつけたらおいしいのです。そういうことで、明るさ対策ということは、非常に大切なことではないかと思いました。

また、トイレの問題ですが、女性のトイレは難しい問題だと思います。しかし、災害時にはプライバシーも何もないということ、日常の会話のなかではっきりしておく必要があるのではないかと考えています。

防災訓練の中で好評だったのは、三角布の使い方です。三角布は、非常時にとても役に立つことがわかりました。

また、ぜひ、鉄西、幌北連町がやったような1泊の体験型訓練が各町内会で必要なのではないかと思います。以上です。

事務局：(石山地域振興担当部長)

ありがとうございました。

続きましてDグループ、よろしくをお願いします。

Dグループ

避難所が住民に周知されていないのではないかと、どこが避難所なのか良く分からないという人が多いという話がありました。合わせて、避難をなさいと指示するのは、行政なのか誰なのかということ、明確にしておいた方が良いのではということがありました。

現在、単位町内会では行政から助成を受けて防災マップを作成していますが、とてもその程度の助成では間に合わないと思います。費用の半分を助成してくれますが、そもそも、もう半分を用意することができないので、作ることが難しいということがあります。

マップを作るにあたって、福祉マップと防災に必要なマップを上手に組み立てて要支援者の避難に使うということで、組み合わせることも必要だと思います。

避難のことでは、先ほども申しましたが、避難開始の判断をどのようにし、どのように伝わるのかということが大事なことだと思います。これを明確にする必要があると思います。

いずれにしても、それぞれの団体の方、それぞれの立場で話がございませう。例えば、道路の危険な場所はどうするのかということもありますし、民生児童委員の立場ではどうなのかということもございませう。

したがって、先ほど話がございませうでしたが、防災は永遠のテーマでございませうて来

年もしっかり取り組んでいく必要があるのではないかという話をしておりました。
以上でございます。

事務局：(石山地域振興担当部長)

ありがとうございました。

たくさん意見をいただきました。

総括というにはすべてを網羅することはできませんけれども、いただいた意見の中では、リーダーの養成、物資の確保にも女性の視点が必要ということで、女性のリーダーが必要というお話もございました。

また、地域で小さな避難場所を確保していくことも有益である、避難場所や生活用品の確保のため、商店街やスーパーなどと協定を結んでおくことも必要という話もございました。

最近、色々な市町村でこのような協定を結んでいますので、これも良いことと思っております。

家族とあらかじめ逃げる場所を決めておくことも大切というお話もありましたし、避難場所では、寒さ対策、明るさ対策が必要ということでございます。

平時からの訓練では、どれだけ多くの人に参加してくれるのかについては町内会の役割が重要というお話がありました。

避難場所を知らない方への周知、だれが避難を促すかという問題もありましたが、町内会にご協力をいただきながら、そういう体制を作っていく必要があると思っております。

意見交換の時間が短くて大変申し訳ありませんでしたが、防災は永遠の課題でございますので、このような機会を設けながら皆さんに共通するような指針をつくらなければならないと思っております。

私からは以上でございます。

梅香座長

皆さん、大変お疲れさまでした。

ご意見にもありましたとおり、この問題が短時間で終結するものだとは思っておりません。

本日の意見交換内容は、事務局で整理のうえ後日皆様に報告させていただきますが、これはまだまだ第一段階ではないかと思っております。

本年度の北区まちづくり協議会は、本日で最後となります。

本来であれば、この全体会の場で来年度のテーマを決定するところでございますが、今回は、お配りしておりますアンケートで、皆さんのご意見を伺い、運営委員会で検討のうえ、決定させていただきたいと思うのですが、皆さま、いかがでしょうか。

<拍手にて承認>

ありがとうございました。

皆さまからご承認をいただきましたので、来年度のテーマについては、運営委員会にて検討することとさせていただきます。

運営委員会といたしましては、引き続き、大テーマは防災、意見交換テーマは避難時の地域の役割・行動ということで進めてはいかがかと考えているところでございますが、ぜひ、皆様のご意見もお聞かせください。よろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして北区まちづくり協議会全体会を終了させていただきます。皆さん、ご協力ありがとうございました。

5 閉会

司会：(木内市民部長)

梅香座長、どうもありがとうございました。

本日は、時間が短く大変申し訳なく思っております。

来年度以降もこのような場を設け、皆様の情報交換あるいは行動に結びつくような形で進めて参りたいと思っておりますので、今後ともご協力をお願いします。

それでは、以上をもちまして、北区まちづくり協議会全体会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

<終了>